

令和7年度連携排砂等の実施結果に関する関係団体からの意見と対応について

【令和7年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業関係団体	<p>(1) 毎年着実に排砂を実施することで、極力土砂を溜めないよう努めていただきたい。 なお、流れ出た土砂はどこに堆積しているのでしょうか。</p>	<p>(1) 実施機関としても、昨今の雨の降り方の変化等への柔軟な排砂運用により「より自然に近い形での連携排砂」を目指し、引き続き関係機関や関係団体のご意見を伺いながら、確実な連携排砂の実施に努めてまいります。</p> <p>流れ出た土砂動態については、他河川からの流出土砂や海流等の多数の要因が相互に影響を与えているものであり、明確に把握することは困難であるが、環境調査を通じて海域における環境の変化は継続して確認してまいります。</p>

【令和7年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業関係団体	<p>(2) 令和7年6月に設置された導流堤は、入善漁港内へ流入する流木に対し一定程度効果が見られた。今後も導流堤の強化や延長を強く要望します。</p> <p>(3) 河口付近中州の除去などによる、黒部市側へ河口間口を設ける対策を講じていただくことを引き続き強く要望します。</p> <p>(4) 黒部川河道周辺に点在する流木等は、排砂時期前に出来る限り撤去していただきたい。</p>	<p>(2) 導流堤は、ブロックの積出し基地への土砂流入防止を目的として実施したものであり、強化・延長等については、土砂の流入状況等を確認しつつ、必要に応じて検討してまいります。</p> <p>(3) (4) 黒部川は、上流域に崩壊地を抱えていることから、連携排砂・連携通砂を含めた降雨による出洪水時に多くの土砂供給や流木があります。</p> <p>黒部川河口部や入善漁港付近における土砂の堆積状況については、黒部川や下新川海岸の工事・管理を目的として実施している測量結果により確認しておりますし、流木等についても河川パトロールによって把握に努めています。土砂の堆積や流木により治水ならびに河川環境への影響が危惧される箇所については、河道掘削や流木の除去等の河川管理上必要となる対策を引き続き行ってまいります。</p>

【令和7年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業関係団体	<p>(5) 国土交通省は過去から一貫して『宇奈月ダムは上流からの土砂を通過させるのみであり、安定河床には至っておらず排砂には当たらない』という主張を繰り返して来たが、近年の宇奈月ダムの状況をみると、現状は概ね安定河床であると思われる。</p> <p>これまで国土交通省からの説明では、宇奈月ダムはあくまでも上流からの土砂を通過させるだけで排砂ではないという説明を行っていたが、出し平ダムの排砂量に加え、宇奈月ダムでも排砂したということではないのか。</p> <p>なお、全体の排砂量は一体どれくらいなのか。</p>	<p>(5) 現在の宇奈月ダムにおける総堆砂量は、計画堆砂容量に対して70%程度の堆砂率であり、かつ堆砂によりダム機能に支障が生じておりません。このことから宇奈月ダムでは、目標排砂量を設定しておらず、出し平ダムから排砂された土砂を通過させることを主眼において連携排砂を実施しております。</p> <p>なお、今回の排砂前後の測量結果において、約10万m³が侵食されていますが、侵食箇所がダム貯水池末端付近であり通常河川でも起こりうる河床変動によるものであると認識しております。</p> <p>引き続き、ダムの堆砂状況について、注視してまいります。</p>

【令和7年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業関係団体	<p>(6) 細砂通過放流が、夏場の潜水漁業に影響を与えるので、他の方法を検討いただくことは可能でしょうか。</p> <p>また、細砂通過放流基準の見直しについて検討していただきたい。</p>	<p>(6) 細砂通過放流は、連携通砂基準に達しない出水時においても、流入する細かな土砂をできるだけ放流する操作であり、ダムへ土砂を溜め込まないため、また翌年の連携排砂時の環境負荷軽減に向けた土砂変質抑制のために実施しております。</p> <p>今後も細砂通過放流の最適な実施方法や基準について、学識経験者の専門的知見による助言・指導をいただき、また、関係機関や関係団体のご意見を伺いながら検討を進めてまいります。</p>

【令和7年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業関係団体	<p>(7) ベントスが多くなったりしていますが、どんな生物なのでしょうか。</p> <p>(8) COD、BODの数値が高い時がありますが、どうしてなのでしょう。また、どんな影響があるのでしょうか。</p>	<p>(7) 海域の底生動物では、5月のC点、9月の飯野沖地引網漁場内2において、個体数が多い結果となりました。両地点ともにゴカイ網が優占種であり、その中でもイトゴカイ科の種が多く採捕されました。</p> <p>(8) COD、BODは、いずれも有機物の量を示す指標です。BODは微生物が分解するときに必要な酸素量を表しており、海水下では安定した測定が難しいため、海域でのBODの測定は行っておりません。</p> <p>河川でのCOD、BODおよび海域でのCODについて、連携排砂中の自然流下開始前後に宇奈月ダム直下や下黒部橋、河口海域において一時的にやや高い値が出ているものの、時間経過とともに値が低下し、これまでの変動の範囲内でもあり、海域への影響はほとんどないと考えられます。</p> <p>これらの値については、先の第63回黒部川ダム評価委員会においても、『一時的な環境の変化はあるものの、連携排砂および細砂通過放流が周囲の環境に大きな影響を及ぼしたとは考えられない』と評価いただいているところです。</p>

【令和7年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業関係団体	(9) 標準値との違いについて、昨年と比べるより他の場所との違いが必要なのではないのでしょうか。	(9) 各地点において、例年大きな差がないことを確認することは、毎年排砂影響を評価する上で重要と考えております。同時に、海域の底質については、東海域、北東海域、西海域と分けてお示し、エリアごとの特徴の違いも含めて評価するなど、地点間のデータの違いについてもこれまで学識経験者の専門的な知見により助言・指導いただき、また、関係機関や関係団体のご意見を伺いながら現在の委員会にてご評価いただいているものと考えております。

【令和7年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業 関係団体	<p>(1) 細砂の堆積による河床上昇が上流まで急激に広がっており、この移動・除去を大至急対応頂きたい。除去した細砂は河川内に待機させるのではなく、河川外に移動し河川の増水などで砂が下流に流れないような対策をして欲しい。</p> <p>(2) 黒部川河口では細砂の堆積によりサクラマスなど、魚の遡上が困難になっており、その度に国交省様をお願いして重機による河口突破実施して頂いていますが、海の大きな波が繰り返す事で元に戻ります。河口から海に向かって舟などで除去やバキューム方式など何か対策をしてほしい。</p>	<p>(1)(2) 黒部川は、上流域の崩壊地からの土砂生産が非常に多く、連携排砂・連携通砂を含めた降雨による出洪水時に多くの土砂供給があります。</p> <p>黒部川の河床や河口部の土砂堆積状況については、黒部川の工事・管理を目的とした測量結果により確認しております。土砂の堆積により治水や河川環境への影響が危惧される箇所については、河道掘削や樹木伐採等の河川管理上必要となる対策を引き続き行ってまいります。</p>

【令和7年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業関係団体	<p>(3) 黒部川の排砂時に合口用水が止まるため、やすらぎ用水も止まるので、伏流水などの、水が濁らない、魚の非難ができる場所が欲しい。</p> <p>(4) 近年排砂で河床があがっているので流した分の土砂の撤去をして欲しい。</p>	<p>(3) やすらぎ水路については、これまでも魚の避難場所として有効に機能するように、環境改善のための検討や必要に応じて対策を行ってきたところです。</p> <p>引き続き、『魚にやさしい川づくり検討委員会』等の場を通じて、漁業者や学識経験者の意見を聴きながら整備に努めてまいります。</p> <p>(4) 黒部川は、上流域に崩壊地を抱えていることから、連携排砂・連携通砂を含めた降雨による出洪水時に多くの土砂供給があります。</p> <p>黒部川における土砂の堆積状況については、黒部川の工事・管理を目的として実施している測量結果により確認しております。土砂の堆積により治水ならびに河川環境への影響が危惧される箇所については、河道掘削等の河川管理上必要となる対策を引き続き行ってまいります。</p>

【令和7年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業関係団体	(5) 評価委員会のメンバーの方々との協議の場を設定頂きたい。	<p>(5) 黒部川ダム排砂評価委員会は、出し平ダム、宇奈月ダムの排砂に関する環境影響を評価することを目的としております。</p> <p>河川環境等に配慮した取組については『魚にやさしい川づくり検討委員会』等の場を通じて、ご意見頂き、その取組については黒部川ダム排砂評価委員会でも紹介させていただいております。</p> <p>引き続き『魚にやさしい川づくり検討委員会』等の場を通じてご意見を伺って参ります。</p>

【令和7年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
<p>農業 関係団体</p>	<p>(1) 近年、農業は担い手農家等に農地が集約され、大規模経営となっている。 そのため、担い手農家は、水の必要な時期が以前と比べて長期化しており、連携排砂及び通砂による断水の時期と農作業の関係性に強い不安を抱いている。 こうした農業情勢の変化を充分考慮され、連携排砂及び通砂の実施情報の更なる周知を図ること。 また、農作物への影響を最小限にするため、連携排砂及び通砂による合口用水の取水停止時間を長期化しないよう配慮するとともに、出穂期等で農業用水が必要な時期は、連携排砂及び通砂基準を満たした場合であっても実施はしないこと。</p>	<p>(1) 実施情報の周知につきましては、Xや黒部河川事務所ホームページの「緊急情報掲示板」による情報発信を引き続き実施してまいります。今後も連携排砂等を実施するにあたっては、地域の皆さまにご理解とご協力が得られるよう分かりやすい広報、情報提供に努めてまいります。 合口用水の取水停止時間の短縮については、排砂後の措置完了を待たずして取水を再開できないか等、取水停止時間をできるだけ短縮させるための検討を行い、今後とも関係者と調整してまいります。なお、現在の排砂・通砂の実施期間については関係機関や関係団体からのご意見をもとに排砂評価委員会ならびに土砂管理協議会で評価・議論し決定されております。実施機関としましては、引き続き関係機関や関係団体のご意見を伺いながら、より自然に近い形での連携排砂・連携通砂が実施できるよう努めてまいります。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応(案)
農業 関係団体	<p>(2) 長年の連携排砂及び通砂により、愛本堰堤上流には大量の砂が堆積しており、昨年、左岸沈砂池及び下流水路に大量の砂が堆積した。</p> <p>排砂後の濁りも近年長期化しており、早急な対策を実施すること。</p>	<p>(2) 黒部川は、上流域の崩壊地からの土砂生産が非常に多く、連携排砂・連携通砂を含めた降雨による出洪水に多くの土砂供給があります。</p> <p>土砂の堆積により治水ならびに河川環境への影響が危惧される箇所については、河道掘削等の河川管理上必要な対策を引き続き行ってまいります。</p> <p>合口用水沈砂地への砂の流入については、愛本堰堤の施設所有者である富山県、施設使用者である北陸電力(株)と情報共有を密に行いながら、連携して必要な対策を実施してまいります。</p>